



大多喜の空



風景を切り取る贅沢な窓

その土地は大きな住宅街のはずれにあり、南に広い林が広がっており豊かな自然に恵まれています。ある初秋の午後、その日は新築工事の打ち合わせ日でした。ちょっと早めに着いた私とSさんは林のほうを向いて雑談をしていました。すると、カサカサという音が出て藪のなかから飛び出てきたのは小さな野ウサギの子です。思わずSさんは「かわいいなあ。」そこへ左側3メートルくらいはなれたところに、青大将が現れました。長さ2メートルはありそうです。音も無く少しずつ野ウサギに近づき、約1メートルの距離になったときにサッと飛ぶような早さで野ウサギに飛びかかりました。野ウサギはみるみるうちにグルグル巻きにされ、へビは締め付けはじめました。ウサギから「キーツ」と苦しそうな声が聞こえました。私は意を決して、近くにあった棒を拾ってウサギから一番遠いところの巻きついたへビの外側を叩きつけました。するとゆるゆると、ほどけてきてウサギは解放されました。私はさらにへビを叩き、へビは時に後ろ側を向いて私を威嚇するそぶりを見せていたのでさらに叩きつけましたが、大工さんが「青大将は殺さないほうがいい。」というのでやめました。青大将は獲物を逃し残念そうに、藪の中に消えていきました。

Sさんはすぐ野ウサギを拾い上げました。前足に噛み付かれた跡があって、出血し骨が見えていました。その日、手当てをしてSさんは野ウサギを連れて帰りました。その後、数か月して野ウサギは犬のように大きくなり、いまでも妹さんにかわいがられています。

家が出来るまでには様々な出来事があります。ご紹介したエピソードも家づくりの大切なひとこまに違いありません。

大多喜の家



上・左は道路側からの風景、
上・右は東側からのショット。
左の写真は隣りに大正期から
建っているという白亜の洋館
です。装飾が手作りされてい
て優美です。
S邸とは和と洋、対照的ですが、
並んで建っているその佇
まいはこの街道に印象的な美
しさをもたらしています。



昨年の暮れからほぼ一年がかりとなった
大多喜の家が完成しました。高野先生
の基本デザインを基に伝統工法を駆使
してつくりあげた建物です。伝統の日本
家屋に見えますが、居住性もデザインも
現代のセンスが取り入れられています。
可能な限り既製品を排除して、キッチン
や換気フードまで手づくりしました。



基本デザイン 高野祐之 先生
(高野デザインプロデュース)



発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>